

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500696		
法人名	グループホーム郷 有限会社		
事業所名	たんぼぼ		
所在地	熊本県熊本市北区植木町宮原177番地		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム横には広い畑があり、野菜の栽培や収穫が出来る。又、家族が面会に来所されても十分に駐車場が確保されている。 法人で10人乗りのワゴン車、及び他に2台の車両を所有している為、全員で外出が出来る。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者の地域福祉への熱い思いで開所したホームは、十年の月日を経験し子供から高齢者まで地域の人々との交流が継続されている。ホームの恒例となった散歩は、外気浴や歩行訓練を兼ねた近隣の人々との出会いの場であり、時にはお茶の接待を受けるなど地域の一員としての生活が定着している。この秋は一人暮らしであった入居者宅へ全員で出かけ、庭の栗やふきの収穫後はシートを広げて弁当を楽しむなど、個人の思いを皆で支え共有する体制はこのホームの特色であり、心ある支援が変わらず続いている。本年度は全館にスプリンクラーを新設し、業者による定期点検や地元消防団員全員が年一回参加する推進会議などで防災意識を高め、災害時の体制強化を充実させている。今後も家族や地域の信頼に応えながら、運営が展開されることに大いに期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人権尊重、毎日を楽しみ、信頼が事業所の理念であるが管理者、介護従事者は、これに基づき利用者がゆったりとした生活空間の中でのんびりとした日々を送れるように取り組んでいる。	入居者のこれまでの人生を尊びホームでの生活が楽しく生きがいのあるものとなるよう、職員と入居者が互いを信じ、家族や地域から信頼されるホームを目指すという思いが込められた理念である。離職の少ない職場環境であり、長年入居者と共に過ごして来た職員の中にしっかりとこの思いが定着している。代表者は運営推進会議の中で関係者に向け、理念を啓発しながらホーム運営に取り組んでいる。	代表者は開所10周年を迎えたことを区切りとして、現理念の基本的な考えを残しながら新たな理念を検討しており、ホームの方向性を示す新理念が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業に参加、又、年1回の夏祭りを実施し、地域の老人会、子ども会、住民の方にも参加してもらい事業所自体が地域に根を下ろしたホームとして交流している。	職員が地域の清掃活動に参加し、地元老人クラブによるホーム前の草刈作業や、消防団の推進会議への参加などの相互協力が行われている。新年恒例の「もぐらたたき」には地域の子供たちが訪れ、伝承行事として入居者にも馴染みのものとなっている。小学校の児童の訪問は月一回の恒例行事となり、歌や踊りを入居者が一緒に楽しみ中学生の福祉体験の受け入れなどの地域貢献にも参与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の代表にも参加してもらい何か心配事や相談事等があれば気軽に相談下さいと働きかけている。又、近隣住人の方には挨拶や話しかけ等によりコミュニケーションが取れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上につながる様、極力、改善に向けて、取り組んでいる	老人会長や民生委員・校区消防団長・包括・家族会代表などをメンバーにして定期的開催されている。年一回は区の消防団員（本年は五名）も参加し、災害対策について意見交換されるなど特色ある会議となっている。また、可能な限り多くの職員が参加し、ホームの取り組みを伝えなが意見やアドバイスを運営に繋げる努力を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターに必ず参加してもらい、事業所の実情や取り組み等を報告し、協力関係を取っている。	代表者は急ぎの用件については電話などで行政と連絡を取っているが、入居者に関することには直接担当者や会ったうえで話しをするよう心がけている。推進会議の議事録や自己報告書の提出によりホームの透明性を図り、本年度はスプリンクラーの新設に伴い行政に足を運ぶ機会が多かったようであり、良好な関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないとの認識を全職員が持ってケアにあたっている。	ホーム内に「身体拘束排除宣言」を掲げ、二ヵ月後との研修で議題として盛り込み、月のミーティングの中でも更に拘束についても認識を深めている。職員は入居者への普段の言葉遣いや対応にも拘束に繋がるものがないかを検討し、入職時には管理者より拘束への取り組みは弊害などが指導されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者は、虐待は絶対にしない、させないの認識を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名、成年後見制度を活用している。後見人の方と利用者のケアについて相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、家族や本人に充分説明を行い、契約書や重要事項説明書にもとづいて納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者、職員が対話をし、利用者の要望等、何かあれば、反映できる様にしている。又、運営推進会議や家族面会時等においても意見を聞いている。	推進会議や面会時には入居者の様子を家族に伝えながら、意見や要望を出してもらうよう促している。職員は日々の入居者との関わりの中で思いを引き出し、月の会議に図りながら洋服を買いたい、髪を切りたいなどの要望に地域資源を活用しながら個別外出として取り入れている。	家族の意見としてあがった入居者への呼び方(呼称)について話し合い、苗字で対応するよう申し合わせるなどケアの中に反映しており、今後も家族の忌憚のない意見を引き出しながらホーム運営に活かされる事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて提案や意見を聞く機会を設けている。	代表者は入居者や職員と食卓を囲みながら意向を聞き取り、職員が普段から何でも言えるホーム環境を整えている。出された意見は月の会議で検討し、車イスを使用されるようになった入居者へ毎日歩行訓練を取り入れることなど、代表者からの指示も出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングを実施し、職員の希望や要望等、必ず聞いて職員が向上心を持って働けるよう勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のミーティングや法人外の研修等職員の希望があれば参加してもらい、職員としての資質の向上に心がけていれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本、菊池ブロックの研修会等、必ず1名以上は参加して、地域同業者との交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、本人の希望や不安に思っている事等、聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、家族の希望や不安に思っていること等、聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は支援相談員としての業務経験もある為、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に食事作りをしたり、同じものを食べたりし、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や来所された時に本人の状態や様子等、家族に報告し本人の状態をよく理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人、友人等面会に来所された時、本人の居室でお茶等を飲みながら語られる様にしている。	天気の良い日の散歩はホームの日課となっており、入居者は顔馴染みの人々と挨拶を交わし、お寺でお茶をご馳走になるなどの関係が出来ている。家族の協力による帰宅や外食、面会などの機会を支援し、農業経験のある入居者が自分の仕事として取り組まれている菜園作りや料理の下ごしらえ(芋の皮むき、ささがき牛蒡)などこれまでの経験や特技が活かせる場面も後押ししている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	畳の居間が、利用者同士が語らえ関わり合いが持てる場所になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても継続的な支援が必要とされる利用者や家族には、かかわりを持つ様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に毎日を送ってもらう様、努力している。	職員は入居者がホームでどう暮らしたいのかを食事を摂りながら、入浴介助の折等、ゆっくりした時間に些細なことでも会話や仕草から声を拾うよう努めている。外出の希望や得意な仕事への関わりなど本人の力を引き出しながらプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の介護計画にも取り入れ、サービス利用の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を総合的に把握し、介護計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当ケアマネや、本人、家族の意向等により、介護計画を作成している。	入居者を職員の担当制としており、日頃の気づきを反映させ本人、家族の希望する暮らしをプランに入れている。計画作成担当者は入居間もない方へは、まずはホームで安心して過ごしてもらうことを優先し、前担当者の情報とすり合せながら本人の好む活動の把握や、他者との対話援助により精神的安定を図りながらプランを立案している。出来上がったプランは家族に分かり易く丁寧に説明することを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等、個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、希望等に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、地域の民生委員や、駐在所、消防所、学校等と協力、連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医に定期受診や特診等により、適切な医療が受けられる様に支援している。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続して支援することを伝えているが、緊急時対応の点から、協力医に変更される場合もある。受診は家族やホームで対応し結果を共有している。三名の看護師の在職は、日常の入居者の健康管理に活かされ、家族にとっても安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、準看護師2名が職員として在職している為、充分日常の健康管理や医療活用の支援が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時、サマリーのやり取りや情報交換等密にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった時、家族にはそのつど早く説明を行い、かかりつけ医とも相談しながら連携している。	入居時に重度化・終末期に関するホームの方針を説明し看取り支援まで行うことを説明している。また、病状によってはホームでは対応できない場合もあることを伝えている。家族の意向は殆どが最終支援まで希望であり、今後もかかりつけ医との連携や職員研修に取り組みたいと代表者は語っている。	メンタル面を含めた話しは代表者より行われており、今後も引き続き重度化・終末期支援に関する研修会の開催が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルの再認識や消防署より救急蘇生法指導訓練等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練の実施や地元消防団との合同訓練ならびに災害時の協力依頼等をしている。	自主訓練や消防署、地元消防団の参加協力による夜間想定総合火災訓練を実施している。総合訓練後はAEDの救急救命研修も行われている。毎回の推進会議には、校区の消防分団長がメンバーとして参加しているが、八月の会議では、区の消防団員五名も加わり、ホーム内の間取りを見てもらったり、救命の仕方の指導を受けるなど協力体制が構築されている。	地域消防団との強固な連携が今後も継続されていくことに期待したい。また、備蓄については職員間で検討し準備頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者に対して、丁寧語で話す様に、又、誇りやプライバシーを損ねない様な声かけをしている。	入居者の呼称は苗字にさん付けとすることや、丁寧な言葉で対応することが、会議や日々の業務の中でも代表者より指導されている。また、守秘義務の徹底を図り、重要書類は事務所内で管理されている。	呼称や丁寧な対応については日常的に話し合い、物品の取り扱いについても、会議の中で指導や共有が図られており、職員自身が更に意識を持って支援に当たることが重要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に午後の時間帯に入居者の中に職員が入り、対話を持つ様にして入居者の思いや希望を表せる様、働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントに基づいて、1人ひとりの介護計画を作成し、その人らしい生活が出来る様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に本人の好まれる身だしなみの支援を行い、理容、美容も本人の希望どうりの支援を行っている。判断等できない方については、職員が声かけを行い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞き立てている。又、食事作りや、片付け等、入居者の出来る範囲で参加してもらっている。	入居者の希望や旬のを取り入れた数日分の献立(手作りおやつも含め)を作成し、食材購入に出かけている。専任の担当者や職員によって調理が行われているが、里芋やフキの皮むき、牛蒡のさがきなどの下準備やテーブル拭き・後片付けなど、できる事で食への関わりを支援している。食事の挨拶は、入居者の担当として継続され、カレンダーに担当者名が記されている。多くの食材を使ったメニューや代表者自ら腕を振った漬物が食卓に並び、ホーム全員で味わう楽しい食事風景が印象的であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人によってカロリー摂取量を調整している。糖尿、高血圧者にたいしても配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけを行い、自分で出来ない方については、介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助を要する人は、定期的にトイレに誘導し、排泄チェック表を作成している。	必要に応じて排泄チェック表を活用しながら、個々に応じた排泄用品を組み合わせ、声かけ・誘導を行っている。夜間は希望や安全面からポータブルトイレを使用される方が殆どであり、洗浄や消毒、日光干しにより清潔に管理している。また、立位式便器が設けられたトイレ内も掃除を徹底し、気持ちよく使用できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維や乳製品を取り入れ、レクレーションでも体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴者、個人個人に合わせた入浴を行っている。	入居者の希望を確認しながら個別対応で、午後から週三回をめぐりに入浴支援を行っている。買い物外出がある場合は、帰宅後落ち着いたから入浴を開始している。見守りにより一人で入浴を楽しまれる方もおられる。季節の菖蒲湯の他、代表者の恩師より毎年届けられる柚子は、二日間にわたって入居者に楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個人の行動に関して制限はしていない。個々の生活習慣やその時々状況に応じて生活されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示どりの服薬は出来ている。薬の目的や副作用の確認についても充分行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら自分の役割を見つけ出したり、こちらからお願いしたのが、いつの間にか、その人の役割になったりと、入居者全員が何らかの役割を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物等で外出する機会を充分つづけている。	敷地内を散歩したり畑の手入れ、食材の購入や買い物など入居者の希望を確認しながら外出を支援している。お弁当をもっての花見や入居者の自宅の畑に栗やフキを採取に出かけた際は、シートを広げお茶を楽しむなど、帰省の楽しみと季節の外出に繋がっている。また、地元のお寺に散歩に出かけた際は、お茶の振る舞いを受け、心安らぐ時間を持たれている。	入居者の身体状況も変化中、外出は困難な場面も増えてくることが予測される。現在、家族が食事を兼ねた外出を行われるところもあり、今後も家族の協力も呼びかけながら、個別の外出支援の取り組みにも期待が持たれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、入居者、1人ひとりの希望や力量に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等希望があれば、そのつど対応しており、ダイヤルを回したり、話の内容を伝えたり、必要があれば介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造りが一般家庭と変わりなく、物品や、装飾も家庭的である。	ホームの庭に咲いた花が飾られたリビング・ダイニングには入居者の塗り絵の作品やカレンダーが掲示されている。段上がりの畳のスペースは休憩や洗濯物たたみをはじめ、活用の機会も多く、夜間安全面で心配な方の就寝に利用されることもある。家庭的な雰囲気や、職員の気配を大切にしているホームは、職員も入居者が安心できるような対応を心がけ業務にあたっている。	入居者の作品の掲示は本人の自信や家族の楽しみに繋がると思われる。今後は季節に応じた入居者の作品や、定期的な掲示物の見直しに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に横になってくつろげる場所があり、入居者同士、自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていた家具や食器、道具等の持ち込みを進めている	本人がこれまで使い慣れた品や必要なものが持ち込まれた居室は、職員によって掃除や季節の衣類管理が行われている。廊下の照明が不安になられる方にはドアのガラス戸に目隠しを貼ったり、使い勝手の良さに配慮し持ち込み品の位置を検討するなど、個々の希望や身体状況に応じた居室環境の整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を十分に活かし、自分で出来る事は自力で毎日を生活される様に支援している。		